



NO.

いちょう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

先徳のことは

住職 平田真純

コロナ禍により危機に瀕した経済、個々の事業・商売の立て直しは喫緊の課題となっています。

それぞれの事業によって、その課題は異なると思いますが、再生の後押しをするような仏教の言葉はあるでしょうか？

天台宗で発行する経本等に、「心の糧」と題して、宗祖や、その門弟の言葉が四項目示されています。これを経済と関連付けてみるとしましょう。

*儲けについて

道心どうしんの中に衣食えじきあり、衣食の中に道心なし。

向上心、よりよき道理への心とともに、おのずと生活の糧は得られる。生活の糧だけを追い求めても、そこに豊かさはない。

*人材

径寸けいすん十枚、これ国宝に非ず。一隅を照らす、これ即ち国宝なり。

貴重な宝物が本当の国宝ではない。自らの持ち場から社会を明るく照らす『人』こそが国宝である。モノ、カネよりヒトが第一である。

*発展

悪事あくじを己おのれに向え、好事こうじを他に与え、己を忘れて他を利するは、慈悲の極みなり。

心から世の中の役に立ちたいと思うことが、商売の基本である。

*競争

怨をもって怨に報せば怨止やまず。徳をもって怨に報せば怨すなわち尽く。長夜夢裏の事を恨む莫れ、法性ほつしょう

真如しんにょの境を信ずべし。

正しい信念は慈悲、徳につながる。慈悲とは、徳とは、単なる柔和、優しさではなく、正道にもとづく毅然さも含まれる。

まさに「故事付け」かもしれませんが、先徳のありがたいお言葉を、ご自身の立場に照らし、考え、心の糧とされてみるのも有意義ではないでしょうか。

待乳山便り

十月御縁日大法要・行事紹介

歓喜講祈禱会

十月十八日(日) 午前十一時

講金 三、〇〇〇円

十月二十日、歓喜講祈禱会を執行いたします。

歓喜講はもともと、昭和二十年の大空襲によって被害を受けた待乳山の再興のため、信徒の結束を促し、また新たに聖天様とのご縁を結ぶ機会を増やす為はじめられた行事です。

以降は秋の大祭として毎年賑やかに行われておりましたが、御信徒の方のご協力により本堂を始め境内はほぼ整備され、秋の大祭は九月二十日の開山会に移っていきましました。現在も歓喜講では、法要終了後に広間にてイベントを執り行



完成間近の本堂(昭和 30 年)

っておりますが、今年は新型コロナウイルス対策の為、法要のみを執行いたしました。御信徒の方にはご自宅での御参りをお願いしております。

歓喜講では、皆様の開運招福を祈願する大般若転読祈禱法要を行います。法要中には講にお申込された方のお名前を一人ひとり読み上げ、法要の最後にはそれぞれのお名前が入った御札をお加持いたしましたしてお授けいたします。

法要の様子は先月同様インターネットで配信いたします。



法要ライブ中継リンク

写経供養会について

例年写経の表彰を行う写経供養会を十一月に開催しておりますが、今年は新型コロナウイルス感染防止の為、写経供養の法要のみ執り行います。

表彰対象者の表彰につきましては、来年以降に延期といたします。

通常通りの写経を行うことができるまでの規模を縮小した写経の会につきまして、表彰のカウント対象外となります。

朝まいり・写経の会再開

人数制限と感染対策を行った上で、半年ぶりに朝まいり会を再開いたしました。

手さぐりではありませんが、久しぶりに朝まいり会として少人数でお堂に集まる事が出来、今後の新型コロナウイルスの収束に向けて少しずつ前進をしているような希望を感じたのではないのでしょうか。

今までのようにお堂

いっぱい集まった皆様と一緒に大きな声を出してお経を唱えることができるようになるまでは、少人数またはオンラインでという形になります。それぞれの可能な範囲でご参加いただき、聖天様とのご縁を結んでいただければと思います。

朝まいり会・写経は予約制となっております。前月の十五日より予約受付いたします。

予約電話 080-7419-1297

☆朝まいり会ライブ配信は会員以外も視聴できるようにいたしました。

この機会に普段参加できない方もご参加いただければと思います。



朝まいりライブ中継リンク

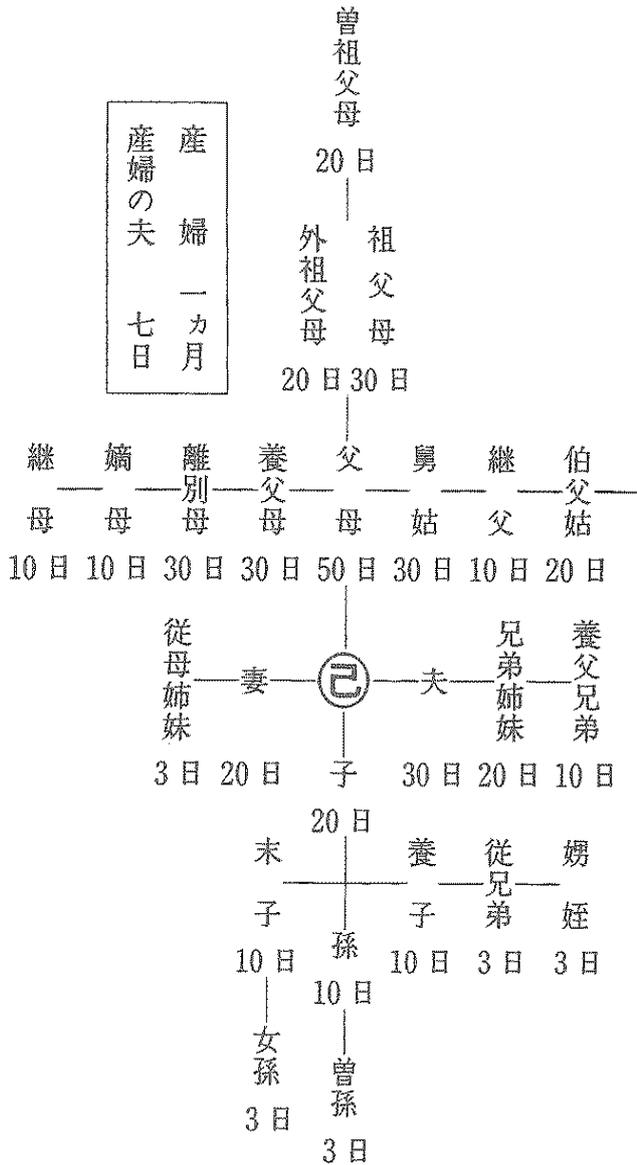
喪に服す

世間ではお盆が終わり、お彼岸の時期となりま
す。皆様ご存じの通り、当院には墓地はなく故人
の供養は致しておりません。それは、本尊様が穢
れを嫌うからといわれております。

ご信徒からは『身内が亡くなったので、何日間
参拝を控えたらいいの？』などの問い合わせは多
くあります。身内関係によって日数は異なります。
下図を参考にしてください。

この忌引の日は江戸幕府が定めた「服忌令(ぶつ
きれい)」という法令がもとになっております。法

忌引の場合に参堂を遠慮すべき標準日数



令が廃止となる昭和20年頃まで公的な基準とし
て用いられていました。もちろん法令という形で
発令される以前より人々の心の中では喪に服する
という習わしとして根付いていたと思われま
す。現代においては、法令ではないにせよ慣習とし
て『四十九日』の忌中や年賀状を寒中見舞いにか
える等が残っております。また神社などの祭祀(お
祭り)においても、参加を見送ったり、お祓いを
受けてからお神輿を担ぐ方もおられるよう
です。では、なぜ当院では忌中の参拝を控えるのか？
最初に述べましたように穢れを嫌う本尊様とい
う理由とともに私たちの際限のない欲や煩悩をひ

ととき冷やすという役割もあるのではないのでし
ようか。人間の欲というものは次から次へと湧い
て出てきます。その煩惱に対処するために皆様は
緊張感をもって尊天様と向き合い、一心に祈って
いることと思えます。しかし、大切な人を失うと
人間は悲しみます。悲しむと心が乱れます。心が
乱れると緊張感を失いやすくなります。

忌中の間は生死の基本、過去・現在・未来の因
縁の基本に立ち返り、自分と自分を取り巻く事象
を見つめなおし、失った緊張感を取り戻しより一
層の思いで尊天様と向き合っていたりするための期
間と思ってください。当院ではそのように解釈を
し、皆様にお伝えしております。

もちろん、他の神社でもそれぞれの決まり事
があると思われまますので、それに従ってください。

個人法要の飛沫感染防止策について

新型コロナウイルス対策のため、個人の般若法
要・百味法要に於いて式衆は
飛沫防止の透明マスクを着用
しております。

御縁日法要、合同大般若法
要につきましてはお申し込み
の方はご自宅での参拝をお
願ひしております。また、イ
ンターネットのライブ配信に
てご参加もいただけます。



十月行事予定

御縁日大法要

歡喜講祈祷会

十月十八日(日) 午前十二時

講金 三、〇〇〇円也

ご参拝の皆様の開運招福を祈念し、各自のお名前入りのお札を授与いたします。

朝まいるり会

十月一日〜七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

詳細は前月号またはホームページをご覧ください。

日曜勤行

中止となります。

写経の会

十月十一日(日) 午前十時

会費 五〇〇円也

詳細は前月号またはホームページをご覧ください。

坐禅の会

中止となります。

合同大般若法要

十月二十五日(日)

午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんとご一緒にお上げする御札の法要です。

十一月の行事 御縁日大法要

写経供養会

十一月八日(日)

午前十一時三十分

詳細は二面またはホームページをご覧ください。

畳講

十一月二十日(金)

午前十一時

講金 一、五〇〇円也

祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされていまます。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

祈祷料

別座祈祷 壹万円(二週間)

浴油祈祷 三千五百円(二週間)

華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすること、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御札の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壹万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。